

A photograph of two women in a lush green field, likely a cilantro field, harvesting plants. The woman on the left is older, with dark hair tied back, wearing a grey cardigan over a patterned blouse and a red bindi. She is smiling and looking down at the plants. The woman on the right is younger, with long dark hair and glasses, wearing a light-colored sweater. She is also smiling and looking down at the plants. The background shows a rural landscape with trees, a fence, and mountains in the distance under a cloudy sky.

make this
MATTER

AI、公平性、そして先延ばしにできない選択

Goalkeepers



GOALKEEPERSは持続可能な開発目標 (SDGS) に向けた進捗を加速するためのものです



TOPIC



04

KEY TAKEAWAYS

2026年レポート概要

05

INTRODUCTION

Nothing Has Felt Like This

08

EXPLORE THE DATA

Where the Inequities Persist

15

IMPACT

Where the Difference Gets Made

20

CALL TO ACTION

Make AI Matter for Everyone

26

GUEST ESSAYS

Real Work, Real Impact

29

I'M STILL THE PROVIDER. AI HAS MY BACK.

Vyonne Njeri氏

ケニア、ナイロビ Penda Healthクリニカル・オフィサー

31

MEETING EVERY STUDENT'S NEEDS

Arnelle Banks氏

米国、ニューヨーク 教師

33

A TOOL THAT'S HELPING CHANGE THE NUMBERS

Momodu Orgber Bah氏

シエラレオネ、ルンギタウン 教師

35

BETTER ADVICE, BETTER HARVESTS

Dipali Kalbhor氏

インド、マハーラーシュトラ州 小規模農家兼起業家

38

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS DATA

持続可能な開発目標の追跡

2026年レポート概要

選択は今、
下されつつある



AIは人類史上まれに見る格差是正の力となる可能性もあれば、格差を最も急速に拡大させる手段にもなり得ます。これは長期的な予測ではなく、現在我々が直面している選択そのものです。

01

市場原理に委ねると富裕層が最初にAIを手にする。



市場原理に委ねてしまうとAIは最富裕層によって彼らのために設計されることになります。

02

最前線の現場に向けて開発することが、すべての人への価値提供につながる



最も大きな変化をもたらすことができる人々や地域のためにAIを役立てることは、決して途方もない進化の飛躍ではありません。それはすでに手の届くところにあるのです。

03

Nothing Has



Felt Like This

INTRODUCTION

AIは人類史上まれに見る格差是正の力となる可能性があれば、格差を最も急速に拡大させる手段にもなり得ます。これは遠い未来の予測ではなく、今まさに下されつつある選択です。



ビル・ゲイツ ゲイツ財団議長

今年の初めに、ルワンダのムウリレでコミュニティヘルスワーカーとして働くGaudence Ngendahayo氏に会う機会がありました。

病気になった時、地域の人々の多くがまず彼女に相談します。「熱が出たが自宅で治療できるか」「子どもの病気は危険な状態なのか」「大きな病院に行く必要があるのか」——一步間違えば深刻な事態を招きかねない質問に、彼女なら答えてくれると人々は信頼を寄せています。

一軒一軒を訪ねて回る中で、設備が整っていればすぐに受けられるはずの検査、診察や薬にアクセスできない状況でこれらの質問を受けることも頻繁にあります。

彼女は優秀で、これまで多くの命を救ってきました。しかし、その負担はもっと軽減できるはずです。難しい判断を迫られたときにより的確な情報を得て、さらに多くの人々をケアするためのツールを、彼女は手にすべきなのです。

ルワンダを訪問した理由は、彼女のような医療従事者から学び、何が彼女たちの仕事に最良の変化をもたらすのかを理解するためでした。そして彼女の話聞く中で、適切なAIの開発・活用により、医療従事者の意

思決定や医療の提供方法を根本的に変革できるのではないかと考えるようになりました。

医療従事者の手元にある携帯電話が、危険な兆候に気づく患者の危険な兆候を察知し、より大きな病院へ紹介するタイミングを見極め、薬が切れる前に必要な処置を予測する——そんな手助けをしてくれるようになるかもしれません。これは医療従事者が個々に入手する情報と、より広範な医療システム全体の情報を結びつける可能性を秘めています。また医療へのアクセスが困難な地域でも、より多くの人々に質の高い医療を提供することが可能になります。

医療は、AIが人々の暮らしを向上させ得る一例に過ぎません。AIは貧富の差や居住地に関わらず、世界中の人々の教育や経済的機会を大きく改善できると私は考えています。

私は人生を通して、イノベーションがいかに新たな機会を生み出すかに焦点を当ててきました。

私はパソコン革命の幕開けを今でも覚えています。テクノロジーがより高性能かつ安価になり、世界中の人々の暮らしを豊かにする、新たな可能性が開かれた時代でした。

私はこれまで、その瞬間には「世界で最も重大な出来事だ」と思えるような、幾度もの変化の波を経験してきました。

しかし、これほどの変化を感じたことはかつてありません。



©Gates Archive/Jean Bizimana, Rwanda



AIは大きな平等化の力となる可能性もあれば、格差を広げる可能性もあります。これは遠い未来の話ではなく、今まさに選択を迫られている問題です。何が懸かっているのかを見ていきましょう。

AIは従来のテクノロジーとは異なります。かつてない速度で進化し、より広範囲に普及し続けています。5年後、10年後の未来がどのようなものになるのか、正確に予測できる人は私を含め誰もいません。

かつてないほど強い不安を抱く人もいれば、かつてないほど胸を躍らせている人もいます。私はどちらの気持ちも理解できます。

AIが雇用、安全保障および社会制度にもたらすリスクについては、[別稿で書きました](#)。これらのリスクは現実に存在し、真剣に検討する必要があるものです。

ここで一つ、忘れられがちなことに目を向けてみたいと思います。それは、AIを適切に活用することにより、これまで手の届かなかった解決策、機会、知識へのアクセスを、より多くの人々に提供できる可能性です。



AIは従来のテクノロジーとは異なります。かつてない速度で進化し、より広範囲に普及し続けています。



Where the Inequities Persist

EXPLORE THE DATA

私たちはこれまで、目覚ましい進歩を遂げてきました。しかし、今のペースのままでは貧富の格差が縮まることはなく、この先何十年にもわたって残り続けることになります。





©Gates Archive/Khula Jamil, Pakistan

進歩を遂げているが、現状のままでは不平等は解消されない

過去25年間は、支援を最も必要とする人々のために意図的に活用することで何が可能になるかを示しています。21世紀に入ってから、子どもの死亡数は半減し、極度の貧困は減少しました。HIV、結核、マラリアによる死亡者数も大幅に減少しました。

これは偶然に得られた成果ではありません。イノベーターたち、最前線で活躍する人々、そして命を救うためのツールに投資し、それらを必要とする人々に確実に届けたからこそ実現したのです。

しかしこの進歩は脆弱です。すでに一部の地域ではすでに歩みが鈍化しており、近年のグローバルヘルス分野における深刻な資金削減により状況はさらに悪化しています。それでもなお、2045年までには世界平均で現在より教育と健康の水準は改善し、貧困率は低下すると推測されます。

しかし平均値だけで全体像を把握することはできません。

ワシントン大学保健指標評価研究所(IHME)の最新データによると、最富裕層と最貧困層間の健康および機会の格差は、劇的な変化が起こらない限り依然として大きく残るとされています。

例えば2045年の推定値でも、サブサハラ・アフリカの若者は高所得国の同年代の若者よりも就学年数が3年少ないと予測されています。これは25年前と比べれば大きな進歩ですが、それでもなお、あつてはならない格差です。

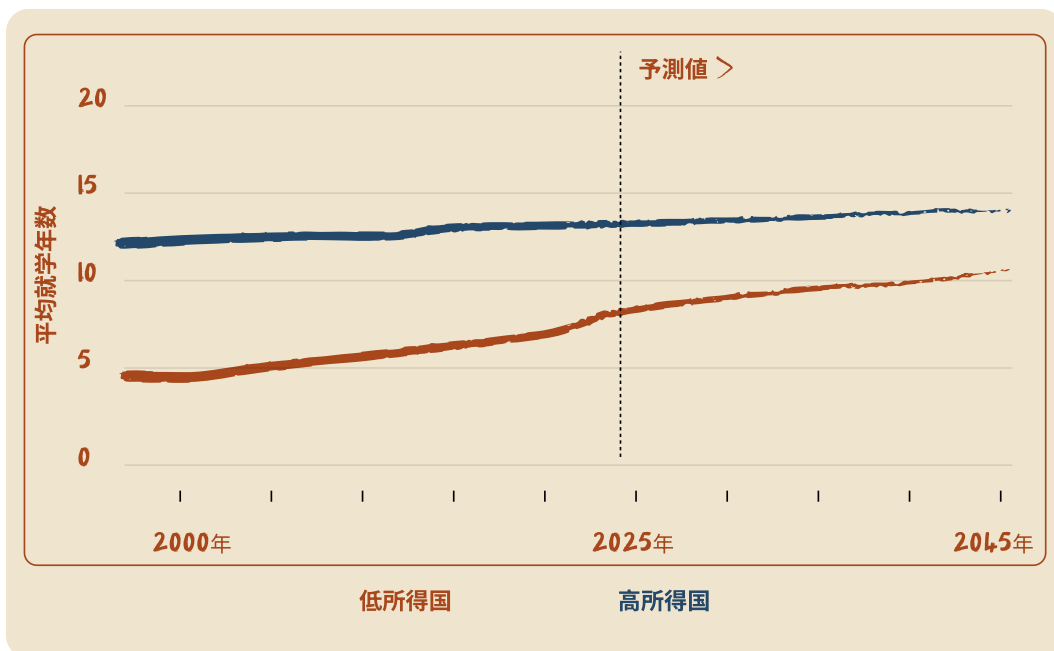
約9億人が依然として極度の貧困の中で生活を強いられ、低所得国における極度の貧困者数は高所得国の330倍に達します。

また、すでに予防法が確立されている病気により、毎年300万人以上の子どもたちが命を落とし続けると推測されています。

教育格差は自然に解消されない

就学年数

高所得国と低所得国の比較(2000年～2045年)



2045年でもなお3年の差

11
年

サブサハラ・アフリカにおける就学年数



14
年

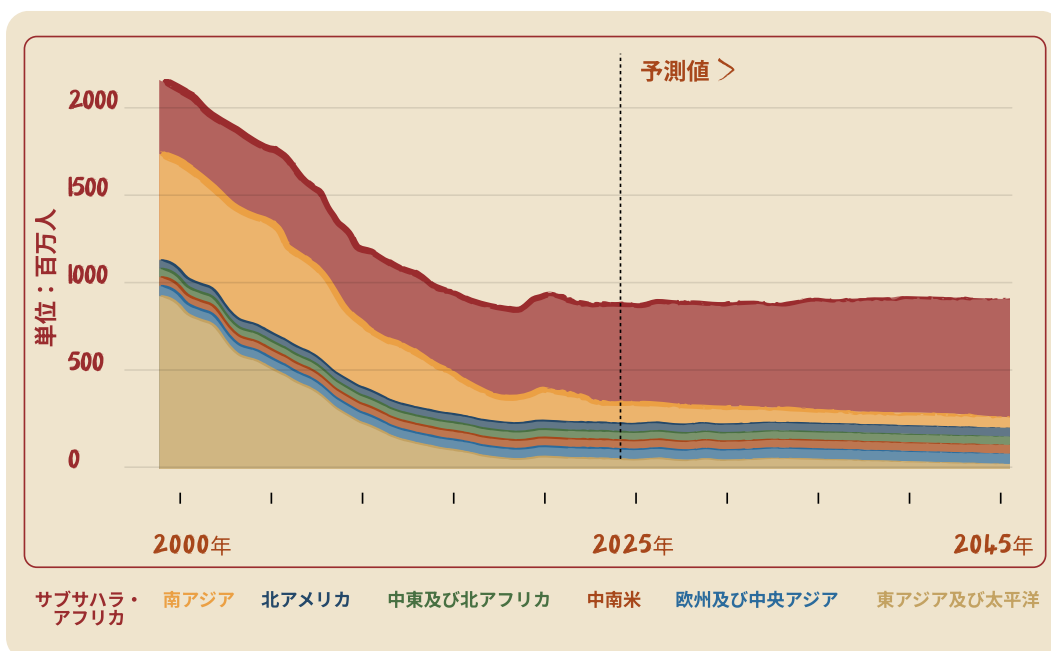
高所得国における就学年数



貧困は減っていない 姿を変えて存続している

地域別の極度の貧困者数

2000年～2045年 (百万人)



9億人

1日3ドル未満で暮らす人々
(2045年)

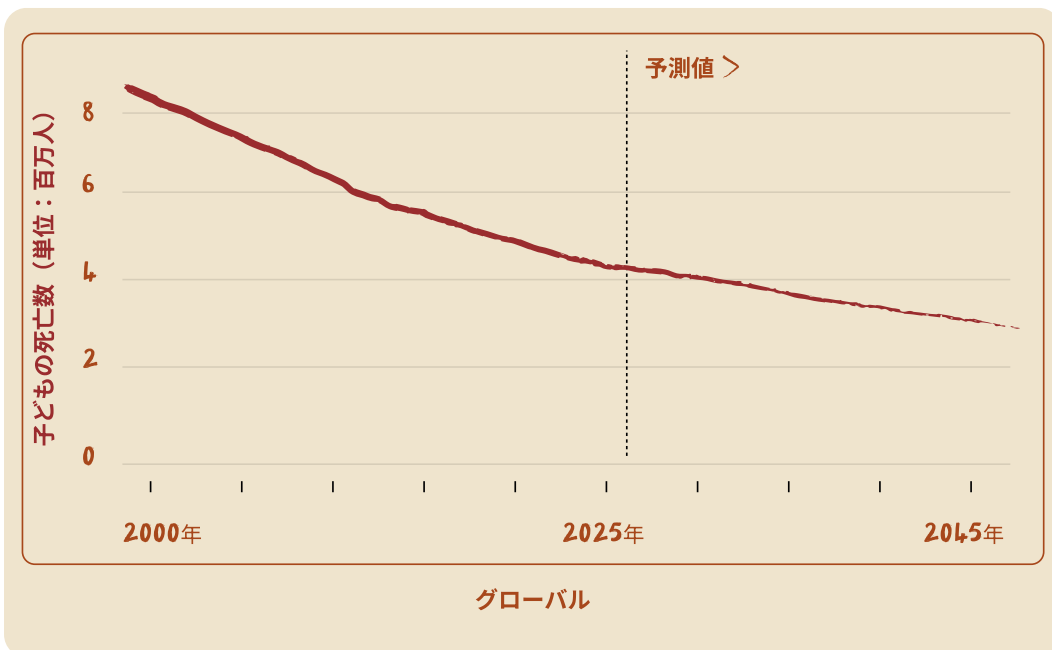


低所得国に暮らしている可
能性は高所得国の330倍

予防可能な原因で今もなお子どもたちが命を落としている

5歳未満児の死亡者数

2000年～2045年 (百万人)



 **300**
万人

の5歳未満児が

今もなお毎年、予防可能な
病気で命を落とす



これらのデータの一つひとつの背後には、ある家族にとって明暗を分ける瞬間があります。病気が正しく診断されるか見過ごされるか、収穫が守られるか失われるか、子どもが読み書きを身につけられるかどうか。AIは、紛争が激化し、病気が蔓延し、資源が逼迫しているまさにその時に登場したのです。

私がAIに関心を持つ理由はここに 있습니다。正しい診断を受けられるか、見過ごされるか。収穫を守れるか、失うか。子どもが文字を読めるようになるか、ならないか。紛争が拡大し、疾病が急増し、資源が逼迫しているまさに今この瞬間に、AIは到来しつつあるのです。

もちろん医療従事者、農家、教師は、独自の判断力、創造性、そして思いやりを仕事に活かし続けるべきです。しかし適切に設計されたAIは、彼らを強力に支援し、知識の普及をより速く、より広範囲に促進することができます。



最富裕層と最貧困層間の健康および機会の格差は、劇的な変化が起こらない限り依然として大きく残ります。



市場原理に委ねてしまうとAIは最富裕層によって彼らのために設計される

今後12～18ヶ月の間に下される決定、つまりAIの構築、資金調達そして展開方法に関する決定が、この技術が主に富裕層に利益をもたらすのか、それとも最貧困層にも届くのかを決定づけると考えています。

私たちはAIを良い方向に活用できます。しかしそれは偶然起こるものではありません。市場とは驚異的なイノベーションの原動力となる一方で、決して機会均等を保証するものではないのです。

ゲイツ財団が設立された理由の一つは、基本的な「市場の失敗」に対処することでした。これは最も支援を必要とする人々が、イノベーションや投資の方向性を決定する力を持たない現状があるからです。この状況は何十年にもわたり、世界の最貧困層に命を救うワクチンや医薬品、その他の医療ツールが、裕福な地域よりも何年も遅れて、

あるいは全く届かないままであることを意味しています。私たちの活動の多くは、この格差を縮めることに向けられています。

AIでは同様の課題がはるかに速い速度で拡大しています。市場原理に委ねれば、高性能なツールは最も恩恵を受ける可能性のある人々ではなく、まずそれを購入できる人々や機関のために開発されることになります。

こうして不平等は拡大していきます。生活を豊かにし、生産性を向上し、時には命を救う技術は、すでに多くを持っている人々に最初に届くようになっています。

AIの発展により、この格差は急速に拡大する可能性があります。AIは過去のどのコンピューター技術の波よりも速く普及しています。月日が流れるごとに、その差は開いていく一方です。AIモデルは、すでに使いこなしている人々にとっては日々精度を高め、より有能になっていくのに対し、使えない人々にとっては何も変わらないまま置き去りにされてしまうのです。

だからこそ、私たちには一刻の猶予也没有ありません。世界は目まぐるしいスピードで変化しています。誰が、どれほど早くAIの恩恵を手にするのか。その未来を私たちの手で形作ることができる期間は、非常に限られているのです。

幸いなことに、最も大きな変化をもたらすことができる人々や地域のためにAIを役立てることは、決して途方もない進化の飛躍ではありません。それはすでに手の届くところにあるのです。

しかし、そのためには政府首脳と開発企業による、意図的かつ具体的な取り組みが必要になります。つまり、最も収益性の高いユーザーにとってAIが何をできるかだけでなく、最も多くを得られるはずの人々にとって何ができるかによって成功を測るということです。



Where the difference gets made



IMPACT

世界中で医師、教師、農業アドバイザーの数は限られています。AIは彼らを支援し、より多くを成し遂げられるようにする可能性を秘めています。

AIの恩恵を、 最も必要として いる人々の 元へ

最も有望なAIツールの多くは未だ試験段階にあります。本格的に普及を進めるためには、あらゆる言語に対応し、ごく普通の携帯電話で動き、人々が日常生活の中で意思決定を行う場所で機能する必要があります。しかし本格的な普及までに要する時間は従来の技術に比べて圧倒的に短くなる可能性があります。AIは適切に開発されれば、すでに人々のポケットにあるデバイスを通じて、自然な会話で届くからです。つまり、AIの研究機関、政府、慈善団体、そして地域のリーダーたちが今まさに下している決断は、非常に重要な意味を持ちます。

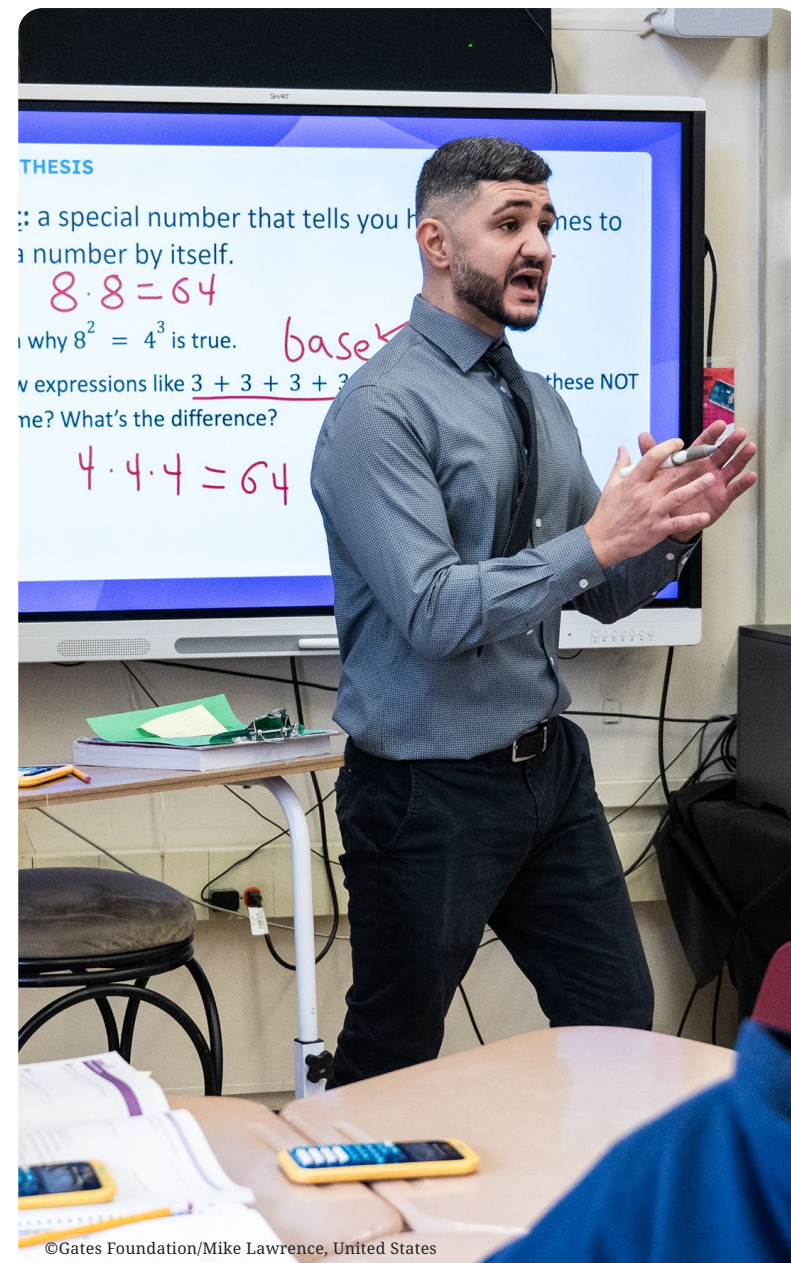
今後3年以内に正しい選択をすれば、最も有望なAIツールは健康、農業、教育などの分野で広く導入され、多くの人々の生活や生計に大きな変化をもたらすことが可能になるでしょう。

これらの重要な課題のいずれにおいても、最も資源の乏しい僻地に暮らす人々が、最も資源に恵まれた人々と同じタイミングで、可能な限り最善の助言を受けられるようにすべきです。そのためにはAIが手頃な価格で利用でき、プライバシーを保護し、それぞれの状況に即して機能することで人々の信頼を勝ち得る必要があります。

そのためには、AI企業、政府、慈善家をはじめ多くの関係者による大きなコミットメントが必要です。ゲイツ財団も自らの役割を果たす覚悟があります。実際、私たちは既に他の組織と協力し、この技術の潜在的な恩恵がすべての人に行き渡るよう取り組んでいます。



**AIの研究機関、政府、
慈善団体、そして地域のリ
ーダーたちが今まさに下し
ている決断は、非常に重要
です。**



©Gates Foundation/Mike Lawrence, United States

変化が生まれる現場：看護師、農家、そして教師

今後20年間は、多くの人々にとって目覚ましい進歩の時代となるでしょう。

しかしより多くの母親が無事に出産し、新生児が幼少期を生き延び、より多くの家庭が収入を増やし、より多くの学生が目標を達成するためには、新しい技術だけでは不十分です。必要な時に、より多くの人々に適切な知識を届けることが不可欠になります。

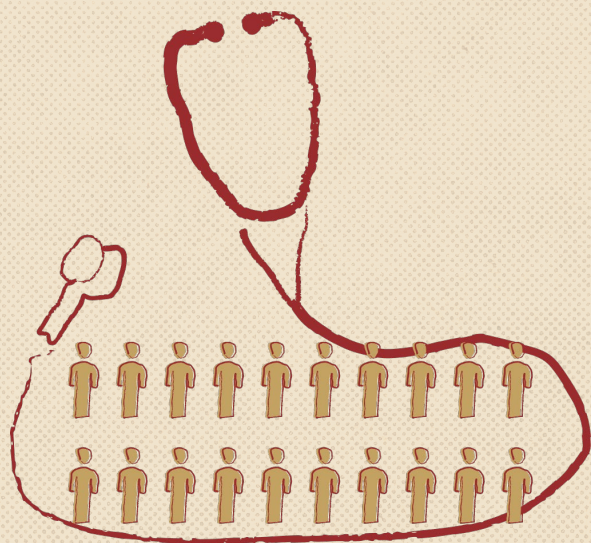
人間の創意工夫は決して代替されるべきではないと思います。しかし医師、教師、専門家の数は限られており、支援を必要とするすべての人に手を差し伸べることは不可能です。

低所得国における医師や訓練を受けた医療従事者不足は特に深刻です。

サブサハラ・アフリカでは、医師1人が約2,000人の住民を担当しています。つまり、1人の医師が町全体の健康を担っていることが多いのです。そのため、緊急の医療を必要とする場合でも待たされるか、または全く医療を受けられな



医師1人あたり住民数



2,000人

*人型アイコン1つが100人に相当

い状況に陥っています。高所得国では、医師1人が担当する人数は200人未満です。サブサハラ・アフリカがこの水準に近づくには、さらに200万人以上の医師が必要となります。この格差は時間とともに縮小していくでしょうが、現状のニーズを満たすにはあまりにも時間がかかります。

医師や医療従事者の育成は不可欠ですが、患者には待つ余裕がありません。現在従事している看護師、コミュニティヘルスワーカー、その他最前線で医療を担う人たちが、より多くの患者に医療を提供し、AIがもたらすあらゆる専門知識に基づいた、よりの確な助言を行えるようにする必要があります。

ルワンダで出会ったコミュニティヘルスワーカーのGaudence Ngendahayo氏は農家でもあります。これは珍しいことではありません。多くの地域では、基礎的な医療を担う人が同時に生計を立て、家族を養い、そのほか生活に必要なあらゆることをこなしています。

彼女のような農家は、一見些細な決断を日々何十回も下しています。何をいつどこに植えるか、種子をどれくらい購入するか、灌漑、害虫対策、収穫時期、いつリスクを取って従来とは異なる手法を導入するかなどです。

世界中の農家、特に小規模農家にとって、こうした判断を正しく下せるかどうかは、豊作か不作かの分かれ目になります。

判断を誤ると損失は作物だけにとどまらず、家族の収入、食料、さらには貯蓄を失うことにもなりかねません。

それにもかかわらず、世界の多くの地域では、作物の不作やしつこい害虫被害、昔より過酷になった悪天候に農家が直面したとき、アドバイスを求めて連絡できる相手が誰一人として存在しません。これは、その家族だけの問題ではありません。彼らの作る食料に依存して暮らす、すべての人々にとっての問題なのです。

今年の初めにインドのアーンドラ・プラデーシュ州で、Annapurna Deviという農家が病気にかかったバナナの葉をスマートフォンで撮影しているのを目にしました。彼女はAIツールを使用して、自分の言語で診断結果と害虫の駆除方法を手に入れました。またアプリを通してドローンを注文し、48時間以内に推奨された農薬を散布することができました。

確かに素晴らしい技術でした。しかし最も重要だったのはもっと単純なことです。Annapurna氏は作物を失うかどうかを知る必要があり、AIツールが間に合うタイミングで答えを示したからこそ、彼女は作物を守ることができたのです。

地域によっては、1人の教師が60人以上の生徒を担当し、多くは複数の学年を指導しています。そのためどの生徒の学習状況が遅れているかを把握する手段がほとんどなく、手遅れになるまで気づかないのが現状です。教育におけるAIの可能性は、教師の影響力を増幅し、生徒がどこでつまづいているかをより深く理解し、個々のニーズに合わせたサポートを提供し、次世代を育てるという複雑で情緒的な仕事により多くの時間を割けるよう支援することにあります。またAIはすべての子どもの家庭教師として機能し、教室外でも同様の個別指導を提供できます。



©Gates Archive/Ryan Lobo, India

現在、教師は生徒にワークシートや問題集を記入させ、授業の終わりに回収し、持ち帰って採点し、その結果を翌日の授業計画に反映させるという手法が多く採用されています。これは非常に面倒な作業ですが、生徒一人ひとりのニーズに合わせて次の授業を組み立てるためには不可欠です。

AIツールによりこの作業を容易にすることができます。ワークシートを授業後ではなく授業中に回収し、AIのサポートでどの生徒がどこで行き詰っているか、どのように支援すればよいかをリアルタイムで把握できます。



**人間の創意工夫は決して
代替されるべきではないと
思います。**





Make AI matter for everyone

CALL TO ACTION

私たちにはまだ選択の余地があります。最も多くの資源を持つ人々が最初に、そして最も多くの恩恵を受けるという従来のパターンを、そのままAIに繰り返させることもできます。あるいは、別の選択をすることもできます——世界中のあらゆる人々のためにAIを築くという選択です。

01

全言語対応

02

地域ごとのデータと実
情に基づいた構築

03

AIを機能させる人々
への投資

私たちが正しく実現すべき3つのこと

AIが最貧困層の人々の生活と生計を向上させるには、今後12～18ヶ月の間に実現すべきことがいくつかあります。そのうちいくつかは、AI企業、政府、慈善家をはじめ多くの関係者がすぐに着手できるものです。

これら3つのステップは、AIを誰もが利用しやすく有益なものにできる魔法のような解決策というわけではありません。しかし、これらは今すぐ優先的に取り組むべき基本的な構成要素であり、大きな変化をもたらす可能性があります。



第一に、AIツールは人々が実際に話すあらゆる言語で機能しなければなりません。

現在のAIモデルは世界の大部分を認識していません。AIシステムは主にインターネット上のデータに基づいて学習していますが、インターネット自体が世界の深刻な不平等を反映しています。初期段階で大規模言語モデルに使用されたデータの90%以上は英語のデータソースから得られたものです。AIから最も恩恵を受けるはずのコミュニティの大半は、これらのツールの基盤となる知識ベースから除外されています。彼らは十分なサービスを受けていないだけでなく、そもそも考慮されていないのです。

AIは既にアクセスできる10億人(主に英語圏)にとっては日々高度化し、より高性能になる一方、地球上の残りの70億人にとっては何も変わらないままです。

英語における最先端のAI音声認識システムのエラー率は6%未満ですが、ヨルバ語では同じシステムのエラー率が60%を超えます。

重要なのは日常的な用語だけではありません。マラウイでの事例は印象的です。陣痛中の女性がチチェワ語で「破水した」と言ったとします。それを英語に直訳すると、単に「水を捨てた」と言っているように聞こえてしまいます。このような誤訳は、適切な医療アドバイスを迅速に受けられるか、悲劇的な結果を招くかの分水嶺になり得ます。

2000以上の言語が存在する大陸でAIによる医療の向上を目指すのであれば、人々が実際にどのような言語をどのように話すのか、つまり方言、アクセント、スラングなども含めて理解する必要があります。

そのためには現地語のデータセットへの投資と、これらのツールが活用される場所で人々がどのように言語を使用しているかに合わせた評価が必要です。



全言語対応

第二に、AIツールは地域のデータに基づき、地域の実情に合わせて構築する必要があります。

言語対応は始まりに過ぎません。アイオワ州の商業農家向けに開発されたAIツールが、エチオピアの小規模農家にとって必ずしも適しているとは限りません。小規模農家は狭い土地で複数の作物を栽培し、家族の労働力に頼り、融資や保険へのアクセスが限定されています。また不作が収入と家族の食糧双方を脅かし得る状況下で意思決定を行っています。効果的なツールはこうした現実だけでなく、作物の種類、害虫、市場における資材価格や入手可能性、その地域特有の天候予測も理解する必要があります。

医療分野も同様で、グローバルな保健ガイドラインは既に存在します。現在求められているのは、ガイドラインを地域の実情に即したものにすることです。特定の国向けに最適化された疫学情報、医療制度で実際に利用可能な治療法、診療所の運営状況などを盛り込む必要があります。ルワンダで発熱した乳児を診察するコミュニティヘルスワーカーは、設備が整った病院の医師とは異なる問いに向き合っており、そういった人々を支援するAIはこれらの違いを反映する必要があります。

これは設計上の問題であると同時に、データ上の問題でもあります。あらゆる環境で機能するAIを構築するには、そのツールが役立とうとしている地域と人々から、健康記録、農業の成果、気象傾向、生徒の学習パターンといった適切なローカルデータを集める必要があります。そして各国が、データをどこに保管し、どのような条件で誰と共有するかを含め、その管理と保護の最適な方法を自ら決められるべきです。

クローズドとオープン双方のAIシステムに役割があります。重要なのは、どのモデルを採用するかではなく、地域の特定のニーズに合致し、かつ持続可能なコストと条件で機能することです。

この投資は時間とともに複利効果を生み出すことができます。単なる印象的なデモンストレーションではなく、質の高いローカルデータから出発し、実際の意思決定に照らして検証されたAIシステムは、使用されるほど性能が向上します。人は自分で使ってみたツールを信頼します。本当に問われるのは、印象的に聞こえるかどうかではなく、実際に機能するかどうかです。

02



地域ごとのデータと実情に基づいた構築

第三に、AIを機能させるための人材とアクセスへの投資です。

有望なAIの試験プロジェクトが実際に多くの人々に役立つかどうかは、現状で十分な投資ができていない2つの要素、つまり人材とアクセスにかかっています。

まず人材面について、最も恩恵を受ける地域社会は、あらゆるレベルで現地のAIリーダーを必要としています。AIをどのように自国に導入するかを形作る政策立案者や技術者、これらのツールを深く理解し、評価し、適応させ、その責任を問うことができる医師、農学者、教師、データサイエンティストなどです。そのためにはこれらの国々でAIの専門知識を習得するための真の道筋を作る必要があります。大学カリキュラム、修士課程、実技訓練などを通じて、次世代が他者のつくったツールを使うだけでなく、自らの取り組みを主導できる知識を身につけることが求められます。

次にアクセスに関しては、AIモデルへの実質的なアクセスと、必要な場所でそれを動かす能力がなければ、いずれも実現しません。現状、そのアクセスは富裕国に極めて集中しており、障壁は価格だけにとどまりません。この状況を変えるには、価格の引き下げ、自社のモデルとコンピューティングリソースを利用可能にするというAI開発企業のコミットメント、政府や慈善団体からの資金援助など、様々なアプローチを組み合わせる必要があります。

遠く離れた場所で設計し、それを各地域に渡して使い方を理解させることは目標ではありません。目標は、最も恩恵を受ける地域社会の人々が知識を身に付け、AIが自分たちのためにどのように機能するかを形作る主体性を育てることです。

03



人材とアクセスへの投資

すべての人にとって、価値あるものにする

生産性が高まった世界は、人々の暮らしをより良いものにするはずですが、しかし歴史が示してきたのは、生産性や資源が増えても、より良い人生——目的、ゆとり、安らぎ——が自動的にもたらされるわけではない、ということです。いまAIについて下されている選択は、次の世代にどのような世界を残したいのかという選択にほかなりません。

AIが生活にどのような変化をもたらすか想像してみてください。

妊娠中の女性が、夜遅くにクリニックまで何キロも移動することなく、自宅にしながら自分の母国語で質問できるようになるかもしれません。農家は1本の病気の作物を見つけることで、収穫全減の危機、そして再び訪れる飢饉の季節を回避できるかもしれません。授業で行き詰まった生徒はすぐに解き方のヒントを得ることができ、一方で教師は、その生徒がどこでつまづいているのかをより正確に把握できるようになります。

これらは些細なことではありません。進歩が、本当に必要なときにある家族のもとへ届くのか、それともまったく届かないのか——それを決めるのがこうした瞬間なのです。

AIは急速に進化しており、市場は歩みを止めません。今つくられているシステムが、この先何年にもわたって誰が恩恵を受けるかを決めていきます。

私たち、つまり開発企業、政府そして慈善団体にはまだ選択肢があります。AIをこれまでと同じ道筋——最も多くの資源を持つ人々が最初に、最も多くの恩恵を受ける形——のままにすることもできます。あるいは、別の選択をすることもできます。世界中の人々のためにAIを構築するという選択です。

この機会を、価値あるものにしましょう。



Real Work.

GUEST ESSAYS

4つのAIツール。4人の現場の担い手。すでに変化は始まっている。

Real Impact.





©Gates Archive/Mansi Midha, India

初期のエビデンスから、可能性が見えてきます

農場や病院、教室、地域社会などで、日々重要な判断を下している人々は、私以上にAIがもたらす課題と可能性を明確に理解しています。

彼らは、身近に専門的な医療従事者がいない母親がどのような状況に置かれるのか、相談できる相手がいない農家が何を感じるのか、あるいは、一人ひとり異なるところでつまづいている30人の生徒を、一人の教師が支援しようとしている状況がどのようなものなのかを、身をもって知っています。

初期のエビデンスから、現場で働く人々のために開発されたツールが既に大きな効果を発揮していることを示しています。ここでは私が特に注目している4つのツールをご紹介します。これらは現場で働く人々が必要なサポートを受けられることで、どのように可能性が広がるかを示す好例です。

続くエッセイでは、医療、農業、教育の各分野でこれらのツールを活用している4人の人物を紹介します。彼らはAIで何ができるのかだけでなく、実際の現場で役立てるために何が必要なのかを理解しています。

PENDA HEALTH

+16

%

診断精度が向上

ケニアのナイロビでは、低価格な一次医療クリニックのネットワーク「Penda Health」が、AIを診療に直接組み込んでいます。これにより、医療従事者は患者を診察する際に、診断、投薬量、専門医への紹介・対応などについてリアルタイムで助言することが可能です。医療従事者はAIから提示された提案を見て、いつどのように対応するかを決定します。これにより診断精度は16%ポイント向上しました。

KIDDOM ATLAS

+6

か月

1年間における追加学習効果

米国ではAIツール「Kiddom Atlas」が、各生徒の数学スキルを伸ばし前に進めるよう、一人ひとりに最適なサポート方法を教師が判断するのに役立っています。生徒は各レッスンの最後に短い診断テストを受け、Atlasがそれぞれの生徒の理解度を測定し、次のレッスンのための学習計画を教師に提供します。21の中学校で実施された初期プログラムでは、中学1年生が1年間で6か月分に相当する追加の学習効果を得ました。

GEMINI ガイド付き学習

+1.7

年

学習効果

シエラレオネでは、Geminiガイド付き学習というAIツールを使う教師たちが、教室で新しい形の支援を得ています。授業は教師が主導しますが、生徒は数学でつまづいたときにGeminiに助けを求められます。生徒が答えを求めても、Geminiは答えを返すのではなく問いを返し、生徒が自分で考えて概念を理解できるよう導きます。12校を対象に8週間実施された試験では、生徒は通常の学習に換算して、最大1.7年分の学習効果を得ることができました。

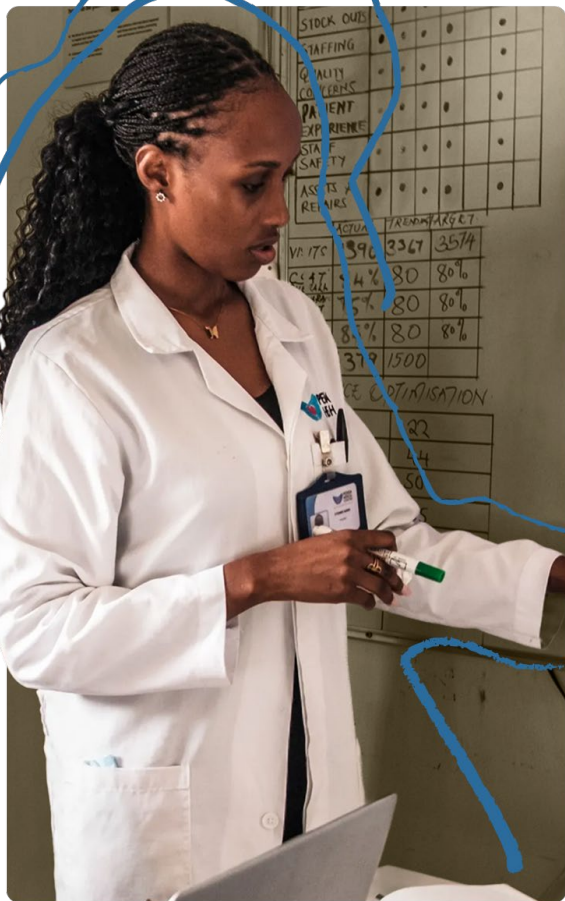
MAHAVISTAAR

18

フォント統一

農家1人当たり

インドのマハーラーシュトラ州では、農家向けの無料AIアドバイスサービス「MahaVISTAAR」を政府のインフラに直接組み込んでいます。農家はアプリ、音声通話、チャットを通じて、作物、天候、害虫対策などについて母語で質問でき、検証済みの地域に特化した回答を得ることができます。すでに74万人以上の農家が利用しており、毎月7万人が新規登録しています。政府の負担は農家1人あたり18セント未満です。



医療を担うのは、 今も私であり、AI がそれを支えてく れています。

Vyonne Njeri氏

ケニア、ナイロビ PENDA HEALTHクリニカル・オフィサー

私が医学に進むきっかけとなった場所は病院ではなく教会でした。

ケニア東部のモドガシという小さな町で司祭をしている叔父を訪ねた時のことでした。ある日、叔父に昼食を届けようと教会に行くと、看護師が高齢の女性の足を縫合しているのを目にしました。外を見ると、順番を待つ患者が長い列を作っていました。叔父の教会には小さな診療所がありましたが、看護師が一人いるだけで、この地域で唯一の医療従事者でした。

私はその場で叔父に医学を学びたいと告げました。

モドガシヤ私が育ったライキピア郡のような農村地域では、多くの患者が医療施設から遠く離れた場所に住んでいます。近隣に住む人でも定期的に通院する費用の余裕がないことが多く、結果として予防可能な慢性疾患を発症し、長期的に見ると治療費はさらに高額になってしまいます。

一方、医療従事者は膨大な数の患者を抱え、たった一つのミスが人の命を奪う可能性もあるという仕事のストレスに常にさらされています。だからこそ、私が今働いているPenda Healthは、セーフティネットを構築しました。

これは「AI Consult」と呼ばれており、すべての診察で使用する電子カルテシステムに直接組み込まれたAIによる支援機能です。患者の病歴、症状、検査結果、推奨する治療法などの情報を入力すると、ツールが入力内容をダブルチェックしてくれます。通常は緑色のチェックマークが表示されますが、特定の症状を見落としたり、不適切な薬を処方したりした場合は、黄色または赤色の警告が表示され、再確認を促します。

以前、生後4ヶ月の乳児が発熱と鼻水で来院しました。ただの風邪かアレルギーのように見えたので、アセトアミノフェンを処方しました。ところがそれを入力したところ、AI Consultから黄色い警告が表示されました。乳児の呼吸数と心拍数が高いという警告です。発熱が要因かもしれませんが、何か別の要因も考えられるため、再度胸の音を聴いたところ、今度は気になる音が聞こえました。

私は母親に、先天性心疾患の検査を受けさせるべきだと伝えました。1週間後に連絡を取ったところ、小児科医が実際に先天性の異常——心臓に穴が開いている状態——を発見したとのことでした。発見が遅れていれば命に関わっていたかもしれません。適切な治療を受ければ、こうした心臓疾患を持つほとんどの子どもは健康で普通の生活を送ることができます。

AI Consultを使い始めて以降、私たちのすべてのクリニックで診断ミスが16%減少し、治療ミスが13%減少しました。

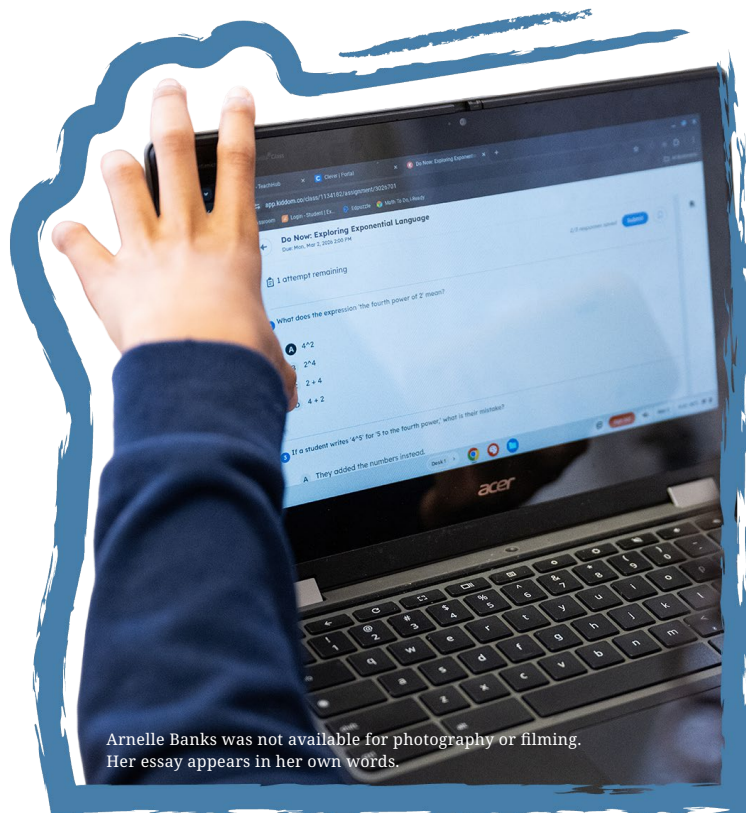
システムはまだ決して完璧なものではありません。私が懸念しているのは、経験の浅い医療従事者が自身の臨床判断力を身につけることなく、AIに過度に依存してしまうことです。また地域ごとの医薬品リストや小児医療のプロトコルなど、特定の情報が不足していることもあります。

AIは医療従事者にとって代わることはできません。あの乳児を診察したのは私です。聴診器を当て、母親と話したのも私です。しかし、誰かの健康をたった一人で責任を負う場合、セカンドオピニオンが命を救うことに繋がります。



AIは医療従事者にとって代わることはできません。しかし、誰かの健康をたった一人で責任を負う場合、セカンドオピニオンが命を救うことに繋がります。





Arnelle Banks was not available for photography or filming.
Her essay appears in her own words.

MEETING EVERY STUDENT'S NEEDS

Arnelle Banks氏

米国、ニューヨーク 教師

中学生なら誰しも他の子たちと違うと感じたくないものです。私もそうでした。ジャマイカで生まれ育ち、中学1年生の時にニューヨークに引っ越してきました。幸いにも数学教師のノーラン先生が、私が疎外感を感じさせないよう配慮してくれました。他の生徒たちに声をかけ、昼食時に一人で座ることがないように気を配ってくれました。

現在、私も同じように中学1年生に数学を教えています。生徒の多くは私と同じく移民で、初めて米国の学校に通う生徒や、初めて英語を学ぶ生徒がいます。しかし私の授業は他の授業と同じように構成されています。

生徒が入ってくると、黒板にウォーミングアップ問題が書かれています。その後、授業を進め個人またはグループで課題を行います。最後に「退出時課題」で授業内容を理解できたかを確認します。私は、退出票を授業後に確認し、誰が理解できていて、誰が苦戦していたかを把握します。

多くの教師が抱える課題と同様に、最大の課題は個々の生徒に合わせた指導です。クラスの人数が多いため、学習に苦戦している生徒に合わせて授業内容を調整し新しい知識を教える前に遅れを取り戻せるようにしています。しかしすでに学年相当以上のレベルに達している生徒には、十分な授業ができない場合もあります。

そんな時AIツール「Kiddom Atlas」が大きな違いをもたらしました。生徒全員に同じウォーミングアップや課題を与えるのではなく、AIが生徒のレベルに合わせて問題を調整します。特定の問題で苦戦している場合は、その問題をより多く練習させ、理解している場合はより難しい問題に挑戦させます。

授業の終わりに個々の学習進捗状況の概要が表示され、理解のギャップがどこにあるのかも正確に把握できます。例えば、担当する中学1年生の一人が、実は小学4年生で習った概念を誤って理解していたために苦戦していたことが分かりました。これは私一人では気づけなかったでしょう。

Kiddom導入前はコンピュータで数学を教えることに懐疑的でした。生徒が手書きで書き出す方が、授業内容や手順をより深く理解できることを知っているからです。今でも私の授業ではほとんどの時間で紙とペンを使用しています。しかしKiddomをウォーミングアップと退出時課題（それぞれ約5分）に使うだけで大きな変化がありました。

私は以前、いつもバッグから大量の未採点のテストがはみ出しており、「バッグおばさん」として知られていました。今はバッグの中にはノートパソコンしか入っていません。

さらに重要なのは、生徒が目覚ましい成長を遂げていることです。1年の間に全員が学年相当レベルに達するか、それを上回るまでになりました。生徒自身はまだ気づいていませんが、本書が公開される頃には、かつて苦労していた中学1年生の多くが、中学2年生の優等クラスに進級しているでしょう。

しかし、まだ改善の余地はあると思います。私が紙で教えるのと同じように、コンピュータ上でも問題に注釈を付けられる機能があればと思っています。また、練習問題自体に欠陥を見つけることもあります。Kiddomはこれらの問題を報告するといつも迅速に対応してくれますが、他のプラットフォームではそうとは限りません。

AIは決して教師に取って代わることはできません。教室を家庭のような温かい場所にすることも、転入生が昼食時に一人にならないよう気を配ることもできません。中学生は誰も他の生徒と違うと感じたくないものですが、実際にはそれぞれが異なります。生徒一人ひとりにそれぞれのニーズがあるのです。Kiddom Atlasは、私一人では到底できなかったほど、そのニーズに応える手助けをしています。



©Gates Foundation/Mike Lawrence, United States



Kiddomは、生徒のレベルに合わせて問題を調整します。



A TOOL THAT'S HELPING CHANGE THE NUMBERS

Momodu Orgber Bah氏

シエラレオネ、ルンギタウン 教師

私が学生だった頃、教科書は貴重な存在でした。

私が中学校に通っていた1990年代、シエラレオネは内戦の真っ只中がありました。物資は不足し、教育は絶えず中断されました。時折、裕福な家庭の子が教科書を持って歩いているのを見かけると、私たちも勉強したい一心で、そこから数ページを盗もうとしたものです。

戦争が終結後、石工の技術を学びました。その後、いくつかの仕事を転々とした後、地元のカトリック司祭であるドミニク神父が私にチャンスを与えてくれ、元戦闘員に建設技術を教えてほしいと頼んでくれました。

振り返ってみると、教えることは私の天職でした。現在は中学校で数学を教えています。ここには教科書がぎっしり詰まった図書室だけでなく、コンピュータ室もあります。生徒がテクノロジーを利用できる環境にいることは、私にとってこの上ない喜びです。EducAid Africaが主催するGeminiガイド付き学習に関するワークショップに招待された時、このツールが授業にどのような変化をもたらすのか非常に楽しみでした。



そしてその効果は想像をはるかに超えるものでした。

シエラレオネでは、数学は天才だけが学ぶものだという認識が根強く残っており、これは国全体にとって深刻な問題となっています。数学は大学進学に不可欠な主要科目であり、数え切れないほど多くの職業において基礎となるスキルだからです。

数学を20年間教えていますが、従来合格ラインに達する生徒は55〜60%程度でした。

しかしAIを導入して指導を補うようになってからは、その数字が100%に達したのです。

これは私のクラスだけではありません。最近実施された試験プログラムでは、ガイド付きの学習を取り入れた生徒は、わずか8週間で1〜2年分の学習成果を上げました。私のクラスを含め、生徒は数学をより楽しめるようになったと報告しており、授業への取り組み方も改善しているように感じます。

AIガイド付き学習ツールは非常に使いやすいです。毎日、ホワイトボードにその日のテーマを書くと、生徒はテーマ、国、学年を入力してガイド付きの練習問題を入手します。生徒が問題に取り組んでいる間、私は教室を回って苦戦している生徒がいなかったか確認します。終わったらコンピュータ室から教室に戻り、通常の授業を続けます。つまり、Geminiから学べないことは私から、私から学べないことはGeminiから学ぶ、という形です。

本当に心が躍るのは、教室の外での活用です。もっと練習したい生徒には、親の携帯電話を借りて——もちろん保護者の見守りのもとで——Geminiを家庭教師のように使うよう勧めています。

もちろんAIにはまだ課題があります。子どもが大人の目の届かないところでこうした技術をどう使うかは心配ですし、生徒の多くは自宅にインターネット環境がないため、学びたくても学び続けられないのが現状です。

しかし自分の子ども時代を思い返すと、インターネットが使えなかっただけでなく、明かりさえないもありました。ランタンが見つからないときは、外で月明かりの下で勉強していたのを覚えています。今の生徒たちが手にしている機会——私が学生だった頃には想像もできなかった機会——に、心が躍ります。



生徒がテクノロジーを利用できる環境にいることは、私にとってこの上ない喜びです。そしてその効果は想像をはるかに超えるものでした。





BETTER ADVICE, BETTER HARVESTS

Dipali Kalbhor氏

インド、マハーラーシュトラ州 小規模農家兼起業家

私の家系は代々農家を営んでおり、体には農家の血が流れています。大学で農業の学位を取得し、卒業後に最初に始めたヤギの飼育で成功しました。当時の私は何でも知っていると思い込んでいました。そこで貯金をはたいて養鶏を始めましたが、結果は散々でした。次から次へと問題に直面し、気づけば何千羽もの鶏を失っていました。

その後、私は深い落ち込みから抜け出すのに時間がかかりました。しかし幸い、私は一人ではありませんでした。素晴らしいチームが支えてくれたのです。彼らの支えを得て、新しいビジネスとして養蜂を始めました。最初は30個の巣箱からスタートしましたが、今では1,000個以上の巣箱と12人のチームを抱えています。地元企業や個人へ蜂蜜の販売を行うだけでなく、他の農家に受粉サービスも提供しており、他の地域に受粉のためにミツバチを調達する必要性を減らすことにもつながっています。

現場でも教室でも多くのことを学んできましたが、最も重要な教訓は、一人でできることには限界があるということです。本当に成長したいなら、優れたチームだけでなく、適切な情報へのアクセスも必要です。だからこそ、地域の農業普及員との定期研修でMahaVISTAARについて知ったときは胸が躍りました。

今まで他のAIツールやアプリを使用したことはありますが、農業に特化したアプリはMahaVISTAARが初めてです。作物の価格、変化する気候パターン、害虫対策などのアドバイスしてくれます。中でも肥料計算機能は優秀です。栽培している作物と使用している堆肥の種類を入力すれば、正確な必要肥料量と施肥時期を教えてください。この機能のおかげで肥料を約15%削減でき、その節約分で桑の栽培という新たな事業を始めることができました。桑は地元の養蚕農家に販売しています。

アプリは政府が開発しており、多くの現地語や方言に対応しています。政府の支援プログラムで利用できるものを確認したり、作物の販売価格を比較したり、地元の農業関係者の連絡先を調べたりすることもできます。このアプリは、日々の意思決定をサポートしてくれるツールとして、少なくとも1日に2〜3回は利用していると思います。

私はこの地域で最も若い農家のひとりです。それが不利だと思われるかもしれませんが、こうした事業は一人では築けないということを、私は痛い思いをして学びました。優れたチームと適切なツールが必要です。この2つがあれば、乗り越えられないものはありません。



最も重要な教訓は、一人でできることには限界があるということです。本当に成長したいなら、優れたチームだけでなく、適切な情報へのアクセスも必要です。



A Final Thought



AIは大きな違いを生み出し、
適切に診断を下し、
作物の収穫を助け、
読み書きの習得をサポートでき
ます。

AIを真に価値のあるものに。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS DATA

持続可能な開発目標の追跡

2015年に世界193カ国の首脳は、2030年までに貧困をなくし、不平等を是正し、気候変動を止めるため、17の野心的な目標に合意しました。ゴールキーパーズは目標1〜6に焦点を当て、これらの目標達成に向けて前進することを目指しています。

ゴールキーパーズ・レポートは毎年、貧困から教育に至るまで18の主要指標を追跡し、イノベーションおよび投資において進歩がみられる分野と、現状が不十分な分野について最新の推定値を提供しています。これらのデータは進歩が確約されているわけではなく、あくまで可能性を示しています。

しかし残りわずか4年となった今、世界は軌道から外れています。2030年までにSDGs目標を達成し、すべての人にとってより公平で安全な未来を築くためには、早急に行動する必要があります。

データの活用

直接元データを確認するには、当財団のホームページをご確認ください。

[URL確認](#)

出典

本ゴールキーパーズ・レポート2026年版で取り上げられているファクトおよび数値は、セクションごとに掲載しています。未発表の分析については方法論の簡単な説明を掲載しています。

引用の全文、参考文献へのリンク、その他参考文献はゴールキーパーズのウェブサイト

[URL確認](#)をご参照ください。



©Gates Archive/Mansi Midha, India